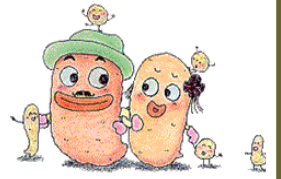


湯戸飛夜いけいけだより



Jinen Joe family

記事:

- ・新年明けましておめでとうございます
- ・祝「西徳山いけいけだより」第50号
- ・戸田駅前ビアガーデン「『まちづくり納涼祭』を開店しました」
- ・戸田駅前ビアガーデン「『秋覚祭』を開店しました」
- ・連載小説『男でござる 新説天野屋利兵衛』新連載
- ・花いっぱい運動「花壇コンクール特別賞を受賞しました」
- ・今後の行事予定

会員募集中

あなたも「西徳山まちづくりの会」で一緒に活動しませんか。会では、常時、会員を募集しています。

E-mail:

nishitokuyamamatizuk
urinokai@gmail.com

発行 西徳山まちづくりの会

新年明けまして

おめでとうございます

令和3年の新春を迎え、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。私たち西徳山まちづくりの会は、平成10年7月に結成され、本年で24年目を迎えます。ふるさとはそこに住むみんなで守り育てていくもので、住みよさの基本は人と人のつながりです。顔を合わせ、あいさつをしよう。語り合い、お互いを理解し、尊重する。そして心を通わせ、助け合う。住民同士が楽しく交流し、お互いの良さを認め合い、力を合わせてより良い地域を作っていく、これがまちづくりと考えています。

ところが、流行の新型コロナウイルスは、密集や密接、密閉を許しません。人が集まる事が禁じられ、去年は定例の地区全体を対象のイベントができず、便りの発行も中断していました。新型コロナウイルス禍が終息すれば、例年通り、人と人が集う場の提供としての戸田駅前ビアガーデン（まちづくり納涼祭と秋覚祭）を開催します。一緒に楽しく時を過ごしましょう。お待ちしております。また、「戸田駅を花の駅にしよう」を合言葉に毎月第2、第4土曜日の16時（夏場は17時）から1時間程度、戸田駅前花壇のお世話、広場周辺の草取りなどの作業をしています。花育てに興味のある方、手伝っても良いと思われる方の参加をお待ちしています。

迎春



さて、少人口・高齢社会を迎え、まちづくりの課題は山積んでいます。自分たちでできることは自分たちで行い、行政にしかできないことは積極的に働きかけていく。私たちは、住む人たちが生き生きと暮らせる仕組みづくりを話し合い、行政に提案していきたくと考えています。西徳山まちづくりの会には老若男女誰でも参加できます。毎月第1水曜日に、夜市市民センターで西徳山まちづくりの会全体会を開催しています。『自分たちの住むまちは自分たちでつくっていく』ものです。まちづくりに興味のある方の参加をお待ちしています。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

西徳山まちづくりの会

祝「西徳山いけいけだより」第50号

平成20年4月に創刊し、毎年4回発行してきた「西徳山いけいけだより」が今号でめでたく第50号となりました。

最初の頃は何度も何度も遅くまで編集会議を開き、苦勞して原稿を仕上げ、どこからか貰ってきた印刷機でB4判用紙に印刷していました。印刷機がA3判用紙に対応していなかったため、A4判原稿をB5判用紙に縮小印刷して印刷原稿にしており、文字が小さくなってしまいました。しかも、古い機械のためかインクが滲んで字は見えにくく、写真は真っ黒になり、更に印刷機の紙送りが悪いので、印刷した便りは一枚ずつ手で繰って確認しないと白紙が混じっている状況でした。1回出す度にくたくたに疲れていたのを思い出します。今では、13年の経験が生かされ、

編集作業も速くなりました。また、印刷も市民センターのものを使い、簡単になりました。

この便りには、まちづくりの会のイベント予告や活動報告、西徳山地区に関係する行政の動き、住民の関心事項、西徳山地区の有名人、名所旧跡、料理等を載せており、更に第30号からは城山耕祐先生の連載小説を掲載し、読み物としても面白い内容になっています。西徳山まちづくりの会のホームページ

(<http://nishitokuyama.web.fc2.com/>)に載せているいけいけだよりのこれまでの記事を見ると、グループ紹介として15グループ、名所旧跡が21箇所、人物紹介が7人、郷土料理として4つを掲載していました。

これからも、編集委員一丸となって、皆さんに楽しみに待ってもらえる紙面づくりに取り組んでまいりますので、ご期待下さい。

駅前ビアガーデン

「まちづくり納涼祭」を開店しました

令和2年7月18日（土）正午から、戸田駅前ビアガーデン「まちづくり納涼祭」を開店しました。参加者は、会員11人、一般参加が1人の12人でした。

サザエ、ツブ貝、鮎、イカ、ハモ、アジの海鮮と玉ねぎ、大願寺など新鮮野菜のBBQ、酢の物、おむすび、そして冷たい生ビー

ル。大変美味しく、満腹になりました。酷暑の夏を乗り切るスタミナを充電しました。



戸田駅前ビアガーデン

しゅうかくさい

「秋覚祭」を開店しました

令和2年11月17日（土）朝から小雨が降っていましたが、予定通り、正午から戸田駅前「秋覚祭（しゅうかくさい）」と名付けた海鮮ビアガーデンを開店しました。

今年も秋刀魚（さんま）は漁獲量が少なく高値でしたが、5匹を皆で分け合いしっかり脂ののった秋刀魚を堪能しました。美味しいサザエ、イカ、鯖、河豚、カマスなど豊富な海の幸と新米むすび、さつまいもなどの山の幸、新鮮な秋の味覚を存分に愉しみ、冷たい

ビールで喉を潤おしながら、至福のひと時を満喫しました。

新型コロナウイルス感染症が終息したあかつきには、戸田駅に駅前ビアガーデンポスターを掲示します。皆さんの参加をお待ちしています。



連載小説

『男でござる 新説天野屋利兵衛』

新連載 文城山 耕作

神村将堅

周南市戸田の四郎谷という所は、周防灘の海辺の小さな集落である。その集落の西と東には、ちょうど両腕で抱きかかえるように岬が海に突き出ていて、帆船の時代には風や波を避けるのには最適の入り江であった。その湾のひときわ入り込んだ所が四郎谷だ。

その集落のはずれの海に面した小高い丘の上に、かなり立派な石碑が、海に背を向け集落を見守るように建っている。今でも里の人たちは、その石碑がある広場の草刈りをしたり、その碑の前で神事を行ったりして、大切に管理しておられる。その石碑には天野屋利兵衛誕生地と大書してある。裏、つまり海側に回ると、

香煙不断万松碑
一説千釣快男児
抛命忘家竭義士
四郎谷里呱聲〇



とある。筆者の拙い知識で意味を推し量ると、線香の香りがこの碑には絶えないことだ。天野屋利兵衛は大きな仕事をした快男児である。命をなげうち、家を忘れて義士に尽くした人だ。今、四郎谷の里の人たちは利兵衛の成したことに心を打たれて、偲

ぶべきだ。ざっとこんな意味であろうかと思われる。

天野屋利兵衛というと、忠臣蔵でお馴染みの赤穂義士に武器を供与した商人で、役人に取り調べを受けても絶対に口を割らなかった人である。赤穂浪士が本懐を遂げたのちに告白し、世の人々の絶賛を受けたという。仮名手本忠臣蔵では天野屋義兵衛として書かれ、天野屋義兵衛は男でござる」の名セリフで有名である。

実際に伝説として、毛利徳山藩の家老である神村将堅 かみむらしようげん」という人が、幼少の藩主が川遊びを楽しんでいた時、その川の橋を乗馬のまま通り過ぎた。そのことが問題で神村は御家断絶になり、四郎谷へ移り住んで里の娘と世帯を持った。二人の間に生まれた子供が喜兵衛という。喜兵衛は上方に行き、後の天野屋利兵衛となったというものである。

筆者は、石碑と伝説は信憑性のあるものとして、時代背景を追いながらこの物語を書いてみようと思う。

少し時代背景について語らなければ、話の端緒がつかめないの、退屈ではあるが、しばらくの間お付き合いを願いたい。

関ヶ原の戦いで西軍の総大将であった毛利輝元は、中国地方のほぼ全域から周防と長門（防長二州）にその治める地域を減じられて、その居城を萩に置いた。輝元は初代長州藩主には長男の秀就（ひでなり）を、次男の就隆（なりたか）には徳山藩四万五千石の藩主にわずか十五歳で就任させた。

同じく長府藩主には甥の秀元を当て、毛利元就からの教えである兄弟縁者力を合わせて家を守ることに主眼を置いた。

ところが、初代徳山藩主毛利就隆は、萩の本藩が幕府から江戸城桜田門の石垣の修理を命じられて、その出費の多さに悲鳴を上げ、徳山藩に負担を願うと、就隆は参勤交代で費用がかさむという理由で、冷たく断っている。また、父の輝元の肝いりで長府藩から嫁をもらったが、しばらくすると離縁したので、萩の本藩との間は自然ときくしくしたものになっていた。

就隆は子に恵まれず、六十六歳の時元次がうまれたが、妾腹の子であったため後継ぎにはしていない。その後、六十九歳で継室との間に元賢（もとかた）が生まれることになる。六十代半ばになるとさすがに徳山藩主就隆も先行き不安になったのである。萩の本藩に、

わたくしも年を取りました。毛利の家は祖父の元就の時から、兄弟一族助け合うことを家訓にしておる。なにとぞ本家に置かれては、分家である徳山藩への手助けをよろしく願いたい。と、虫のいい願いをしている。

この時すでに兄の秀就は他界し、萩の本藩の藩主は秀就の四男の綱広になっていた。綱広は叔父からのたつての願いに、萩の中で、誰か仕事のできる切れ者はおらぬか。徳山と萩のパイプ役を果たしてもらいたい。徳山で家老となり、藩主を補佐してもらいたい。と、叔父からの願いにこたえた。

以下次号)

西徳山まちづくりの会

編集後記

令和2年は、本来なら東京オリンピックが開催され、世界中から人々が押し寄せてくるはずでしたが、今年（令和3年）に延期になりました。そして今になっても予定されていたように、観客を入れての開催ができるかどうか危惧されています。すべては新型コロナウイルス感染拡大の所為で、世界中がコロナ禍に振り回されています。

小誌も記念すべき第50号を目前にして、7月号、10月号と2回も足踏みをしてしまいました。そして、令和3年の1月でようやく第50号の発行に到りました。

コロナ禍のなか私たちの活動も最小限に抑えることを余儀なくされました。そんな中で、私たちの活動の一環であります戸田駅前花壇が、周南市の花壇コンクールで特別賞を受賞したことは特筆に値するものです。

今後も、戸田駅を花の駅にすることを活動の中心にして、環境美化に努めてまいります。

そして、小誌が60号、70号と皆様のお手元にお届けできるように、努力していきます。

発行責任者

会長 神本康雅
広報部長 木曾裕子

西徳山まちづくりの会

ホームページ URL:

nishitokuyama.web.fc2.com

花いっぱい運動

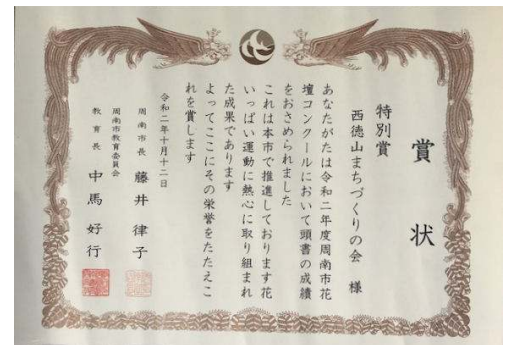
「花壇コンクール特別賞を受賞しました」

令和2年度周南市花壇コンクールに応募し、「特別賞」を受賞しました。（1団体のみ）

令和2年10月12日に市役所にて表彰式がおこなわれました。暑い時も寒い時も草引きや水やり、土作りなど花壇の手入れには根気が必要ですが、ちょっとだけ褒めてもらえると、やる気、元気、根気が出てきます。駅前を通る方からも声をかけていただくと、うれしくなってきます。

表彰式のあと、花植えの講習会を受講しました。米沢園芸の田村講師から、種のまき方、苗の植え方、鶏糞・牛糞の扱い方などの講義を受け、改めて花の育て方の難しさを実感しました。

駅前には、現在、ビオラ・キンセンカ・葉牡丹・ノースポール・ネモフィラなどを植えています。コロナ禍で自粛生活を余儀なくされている今、花を愛でてちょっと一息つけるといいなと思っています。



今後の行事予定

西徳山まちづくりの会全体会

原則として毎月第1水曜日の19時30分から夜市市民センター

戸田駅前広場周辺の清掃

毎月第2、第4土曜日の16時から、戸田駅前広場の清掃と花壇の手入れを行っています。

お手伝いしていただける方、大歓迎です。